

V21c

南天 CCD サーベイ用広視野カメラ - ファーストライトと今後

大藪進喜、川良公明 (東大天文センター)、中島紀、今西昌俊 (国立天文台)、Bruce A. Peterson (RSAA, ANU)

我々のグループは、オーストラリアの Siding Spring 天文台にある UK Schmidt 望遠鏡 (1.2m) を用いて南天を CCD サーベイするための広視野 CCD カメラの開発を行っている。カメラの仕様は、2k×4k の SITe の CCD を 2 枚並べ、 $1.1^\circ \times 1.1^\circ (1''/\text{pixel})$ の視野を持ち、CCD の読込による死時間のないドリフトスキャンによる観測モードを持っている。これにより、このカメラは南天を広帯域フィルターで高効率・高感度で広い領域をサーベイすることを可能にするものである。

このカメラと UK Schmidt 望遠鏡を用いて、我々は高赤方偏移のクェーサーや低温度の褐色矮星・白色矮星の探査をするために、数百平方度にわたって多色の南天サーベイを行うことを計画している。さらに宇宙研ですすめている Astro-F 衛星によって見つかるであろう遠赤外線ソースの光学同定のための基礎データとなる CCD サーベイを南天で行う予定である。

本発表では、2001 年 12 月に、UK Schmidt 望遠鏡に設置して行ったファーストライトの報告と開発状況の現状およびプロジェクトの今後の紹介を行う。